

武蔵野市立第五小学校 コンセプトブック

令和7年1月

1 建築計画

1-01 設計コンセプト

- 目的

基本計画で掲げた「学習や教育の変化に対応し、主体的・対話的で深い学びができる施設」を文部科学省の新しい学びを目指す「学校施設全体を学びの場」とすることと、武蔵野市が目指す「ゆるやかにつなぐ学びの空間」を実現します。それにより、学習の場において児童の創造性を養い、先生が自由に教えやすい環境を整えます。

また、児童が健やかに個性を尊重して生活できるように多様な居場所をつくり、だれもが居心地がよく、楽しく学び遊ぶ場を提供します。

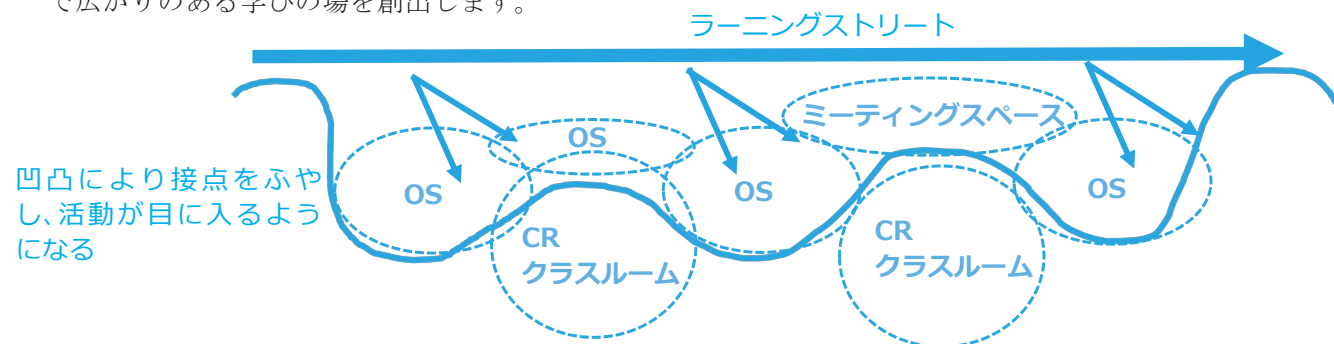
「明日また来たいと思える学校」

基本計画を受けた基本設計のコンセプトとして、子ども達や教職員、地域の方々にとって「明日また来たい」と思ってもらうことを大切にします。小学校は学びの場であると共に生活の場です。

だれもが自分の拠点として居場所を持ち、生き生きと活動できることから全てが始まると考えます。

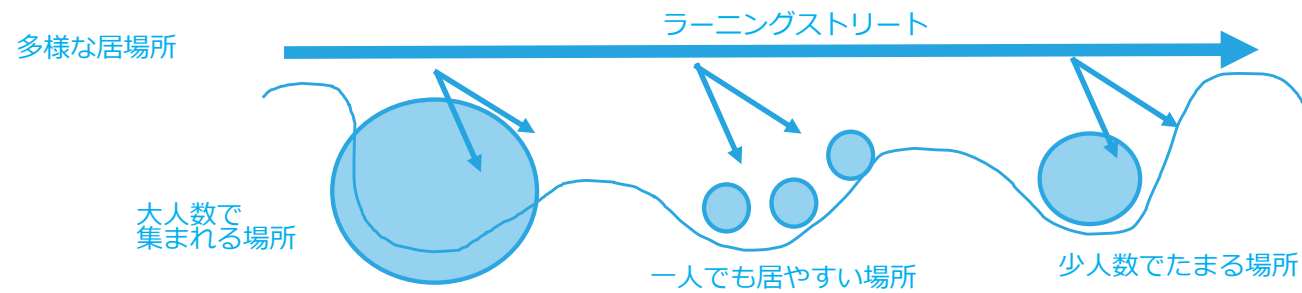
① 画一的ではない揺らぎのある空間がつくる学びの広がりを大切にします

従来の画一的な教室配置ではなく、使い方を限定しない大小様々な揺らぎのある空間をつくることで、自由で広がりのある学びの場を創出します。



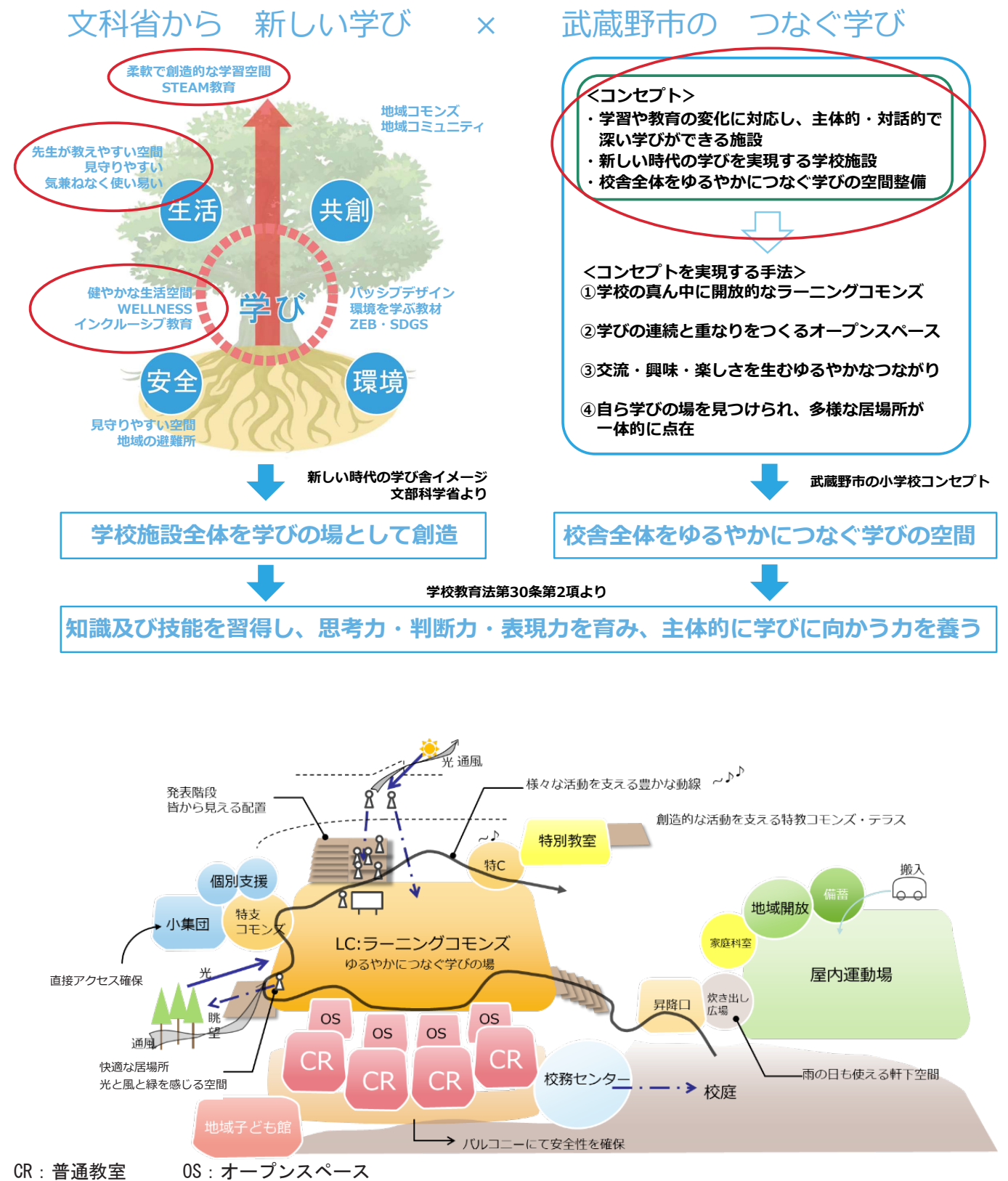
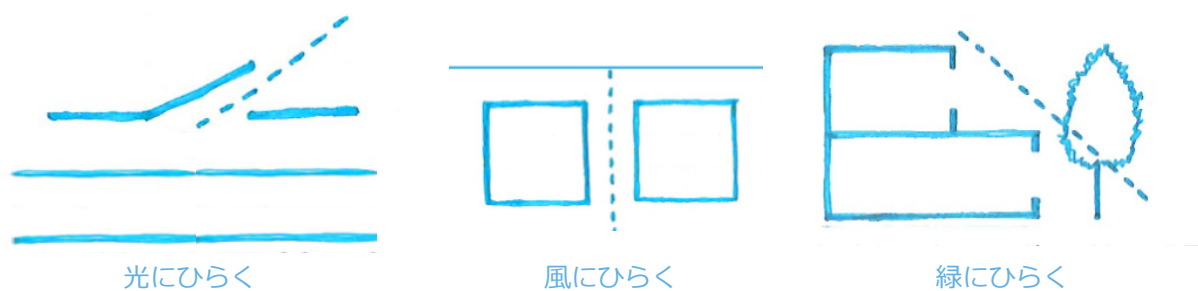
②多様な居場所があり、毎日行きたくなる学校をつくります

児童自らが選ぶことができる多様な居場所をつくり、毎日行きたくなる魅力ある空間とします。



③木もれ陽の下で自然の光と風をとりこむ快適な学びの場をつくります

校舎の中でも光や風を感じ、自然と共に過ごす学びの場



1 建築計画

■基本方針

武蔵野市の基本方針である「校舎全体をゆるやかにつなぐ」コンセプトを大切に下記方針で空間を計画します

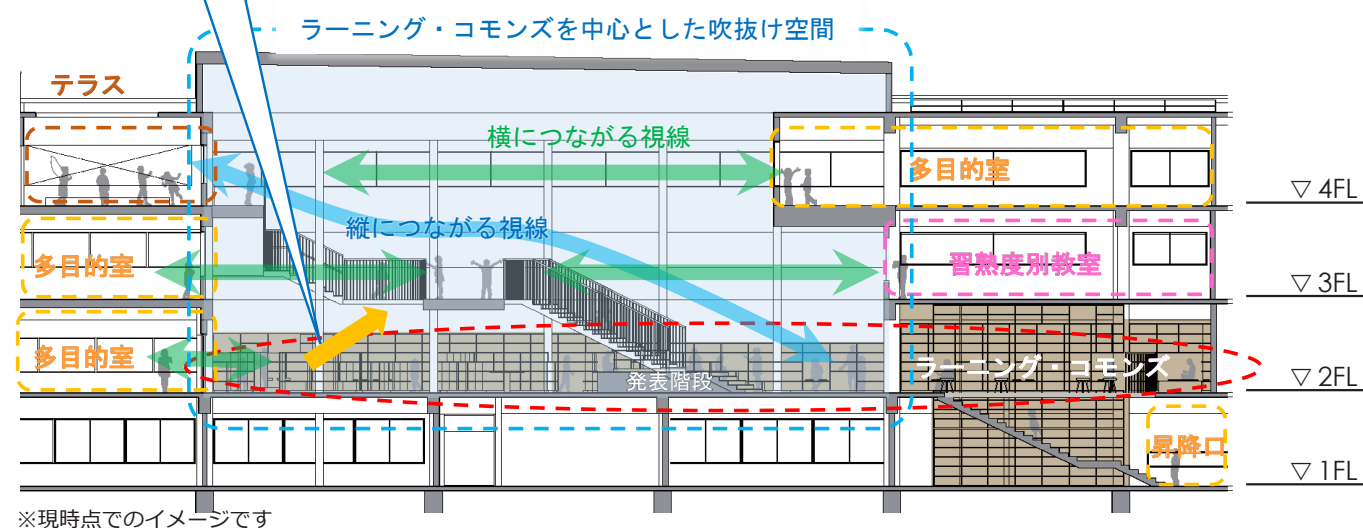
① 開放的なラーニングコモンズを校舎の中心に配置

ラーニングコモンズを校舎の中心に配置し、吹抜けとして全体をつなぐことで、学びとの出会い・興味・楽しさを生み出すと共に、交流・刺激・遊びを誘発します。ラーニングコモンズを囲むように普通教室を配置し、授業の中で、登下校の途中で、休み時間中に、常に本の知識や児童同士のコミュニケーションを取ることができる構成とします。

校舎全体を学びの場とする工夫の一つとして、廊下を歩く移動時間も学びの時間となるような校舎を考えます。ラーニングコモンズに向けて、**CR**: クラスルームと **OS**: オープンスペースをゆるやかに凹凸を持ってつなぐことで、様々な学級の活動が歩く目線に対して顔を出し、活動が見えやすくなります。歩きながら、他の学級や学年の今やっていること、授業風景を体感することで、児童同士の「見る・見られる」関係から、学級や学年を超えた交流に発展し、わくわくや好奇心が誘発されて、より主体的な心を育てます。



ラーニング・コモンズから縦にも横にもつながる空間イメージ



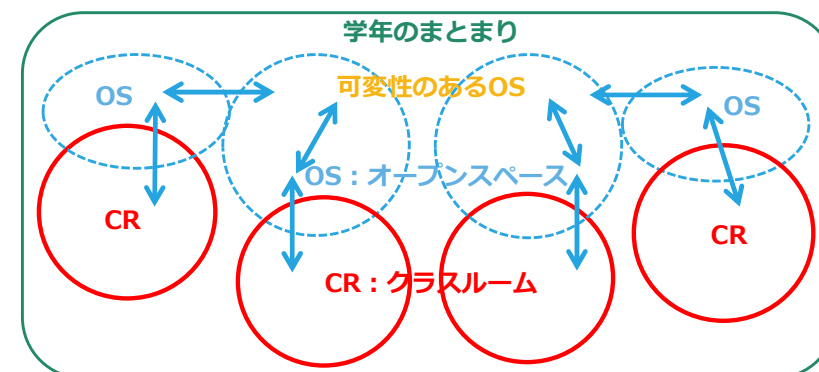
※現時点でのイメージです

② 多様な学びに対応して空間を拡張・分割出来る柔軟性・可変性がある教室

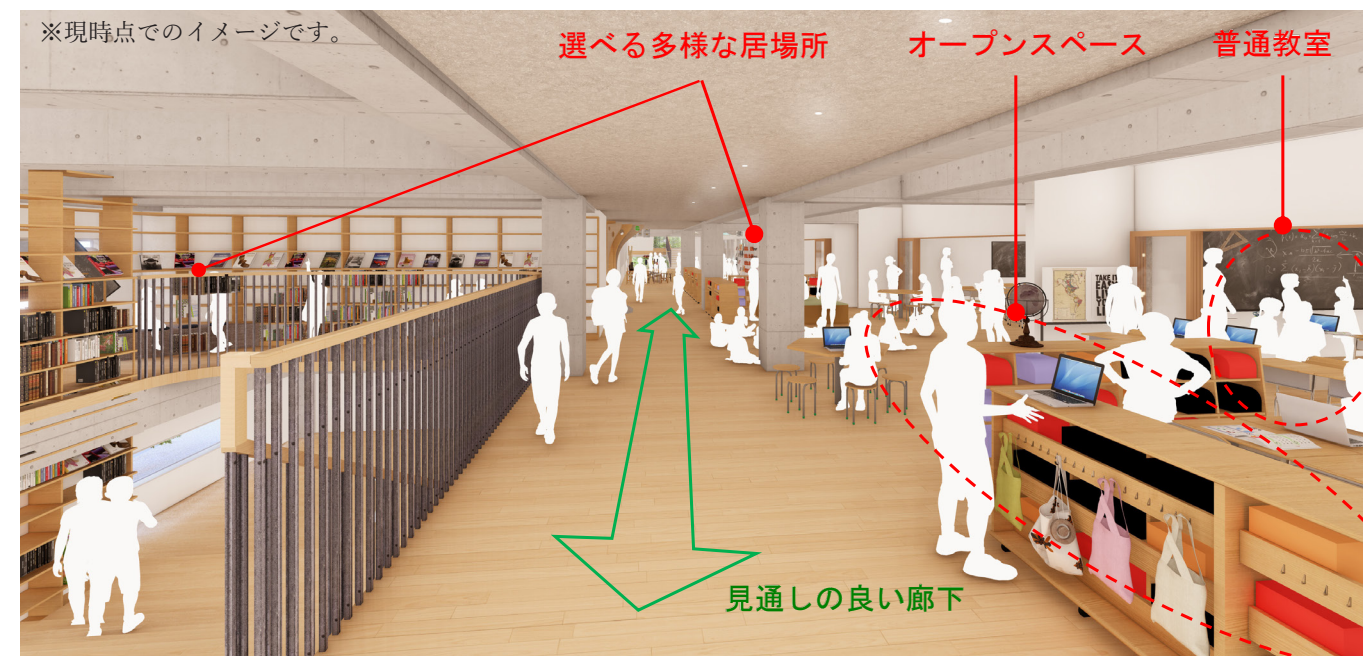
教室とオープンスペースがあることで、グループワークのためのスペースから個人が集中して学べる小空間まで対応することができ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実が実現できます。

新しい学びでは、一斉授業中心だった学びをグループワークや発表のような主体的な学びに変換することが求められます。普通教室前に **OS**: オープンスペースを設けることで、授業形態のモードチェンジが可能になります。将来の学習形態は様々な使い方が考えられるため、その際に使いやすい校舎であるように、**OS** の大きさを多様なタイプに設えることで、重ね使い、兼用、拡張により、先生の望む活動に応えられる校舎とします。低学年は床座が多く、高学年は個人の調べ時間が多くなるなどの学年の違いや、1学級1担任の学級担任制から1学年を複数担任で見守る学年担任制などにも、一部が広い **OS** により、アジャストしやすく様々な先生の望む活動を包含する **OS** をつくります。

武蔵野市立千川小学校、大野田小学校にてオープンスペースを活用しています。蓄積された教育ノウハウをヒアリングや現地調査により分析し、取り込むことで、実態に合った計画とします。(04,07 頁参照)



③ 多様な学びを促す、健やかな生活空間：だれもが自分の基地（＝居場所）のある学校を作ります。小学校では授業以外の生活の時間が 1/3 を占めるため、多様で多感な児童の一人一人の気持ちを尊重し、だれもが自分の居場所を見つけられる校舎とします。眺めの良い一人席、短い休み時間でも過ごしやすい身近に多様な場所を作ります。子どもの居場所と共に、教職員の拠点も大切に計画していきます。



ラーニングストリートイメージ

■千川小学校、大野田小学校のオープンスペースについて
武蔵野市の既存小学校における、オープンスペース実践の実績から学び、新しい学校に活かします。

②－Ⅰ 千川小学校について(平成9年竣工)

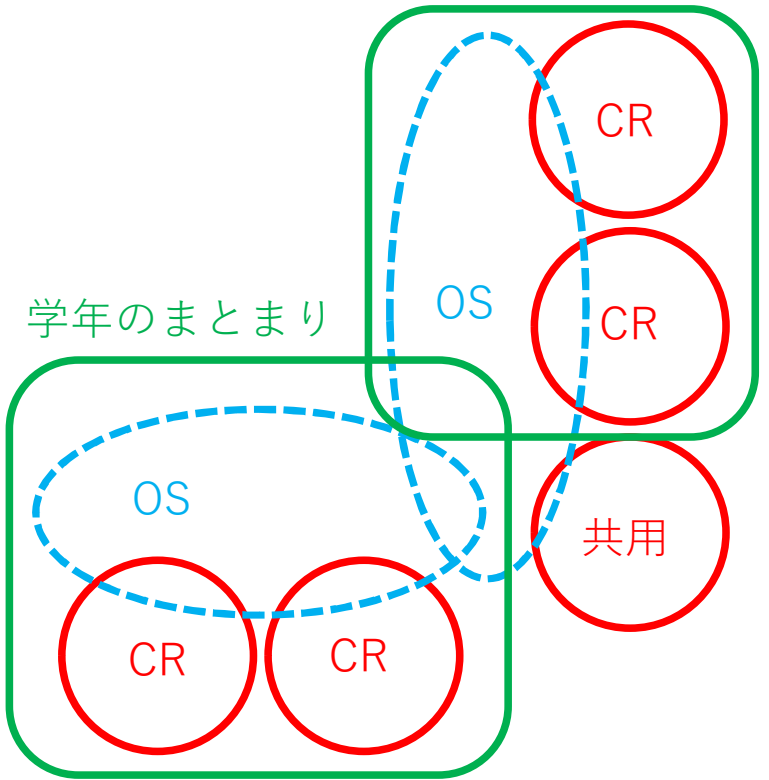
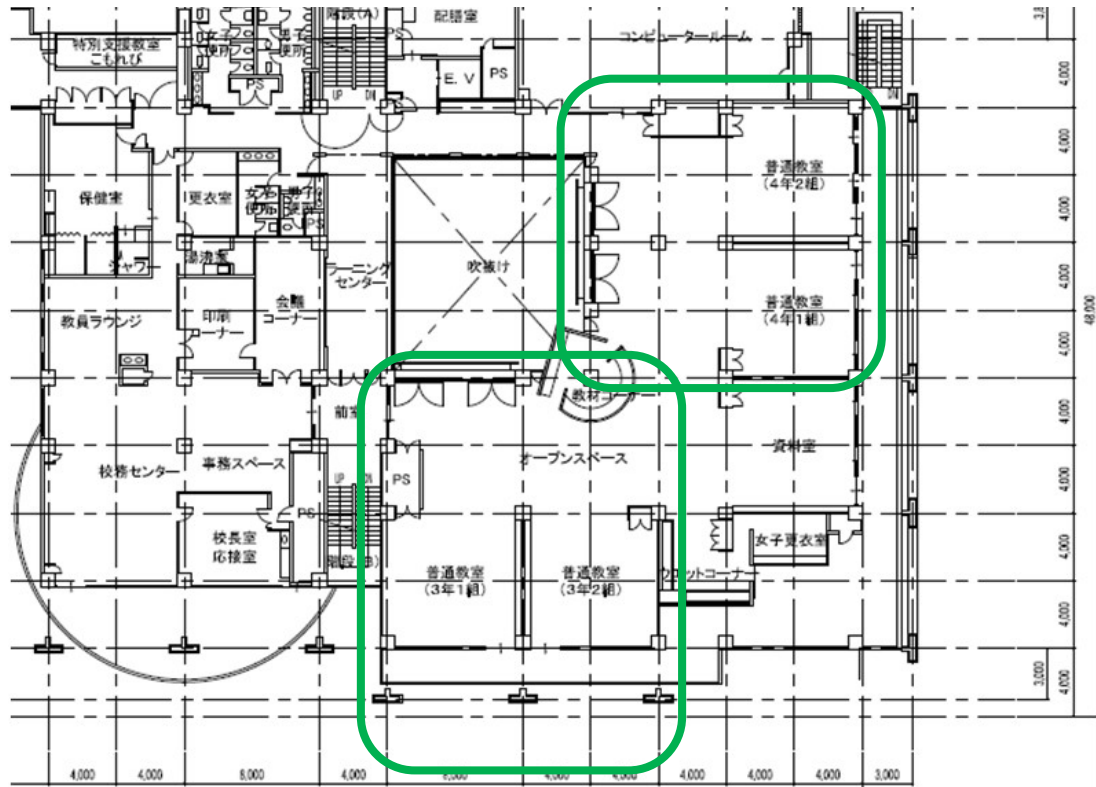
千川小学校は1学年2クラス単位で学年ユニットを組み、L字型に1フロア2学年の構成となっています。
オープンスペース（OS）と教室（CR）の間に建具は無く、完全にオープンな教室です。
2学年の間のL字のコーナーにはウェットコーナーや教材スペースがあります。教材コーナーは、夏休み自由研究の展示や、図書の特設文庫利用など、各階多様な使い方をしています。中央には吹抜けがあり、校舎全体が一体感を持った構成となっています。



千川小学校オープンスペース



教材コーナー展示利用

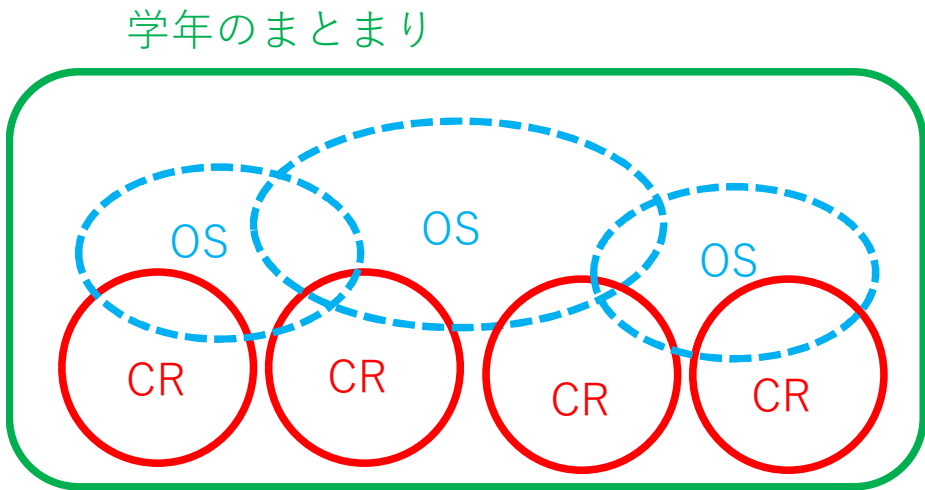


②－Ⅱ 大野田小学校について(平成17年竣工)

大野田小学校は1学年4クラス単位で学年ユニットを組み、並列する形で1フロア2学年の構成となっています。
オープンスペース（OS）と教室（CR）の間に建具は無く、黒板側に教師コーナー収納が袖壁となっており、オープンながら、囲われ感を持った教室です。
4教室分のオープンスペースは広く、夏の熱中症対策としての屋内体育にも活用できるゆとりを持っています。
低学年ユニットのオープンスペースには小さな囲われたスペースがあり、読み聞かせができたり、スケールダウンした居心地の良さがあります。



大野田小学校オープンスペース



1 建築計画

■ 普通教室まわりの全体構成

普通教室周りには学年単位で使えるユーティリティスペース（教材教具収納、手洗い）とコミュニケーションスペース（展示スペース、談話コーナー、クールダウンスペース）を設け、児童の生活空間の充実を図ります。ゆらぎのある空間として、教室の前のオープンスペースは奥行きを設け、中央の窪地的な広がりのあるコミュニケーションスペースを中心に、1学年のまとまりをつくります。広いコミュニケーションスペースは学年単位の展示や、集会、合同授業など、多様な学習に活用でき、様々な学びのモードチェンジに応える拡張空間です。学年と学年の間にはアルコーブ空間となるユーティリティスペースを計画し、外気に面することで、建物の中に自然の光や風を導き、そこから緑を眺めることもできる豊かなたまり場をつくります。

<ゆらぎのある空間のメリット>

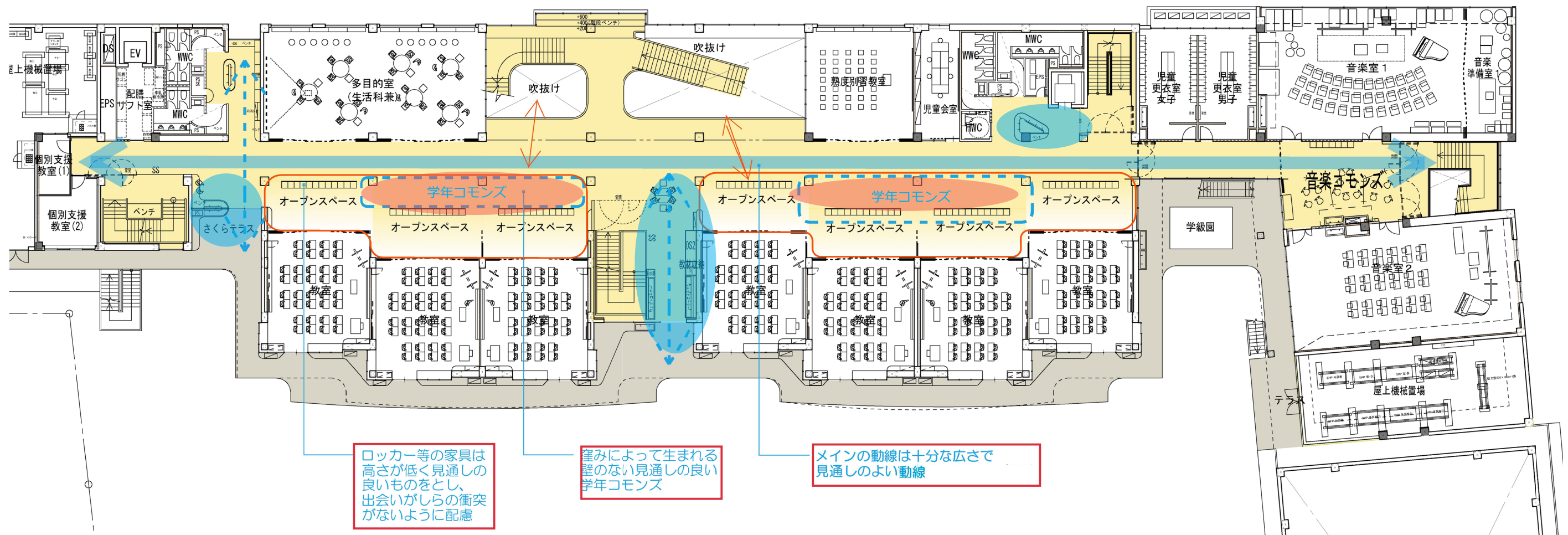
- オープンスペースの大小やコミュニケーションスペースの広がりが多様な学びのモードチェンジに応え、豊かな学習生活につながります。
- 大小のたまり場＝窪地は居心地がよいので、そこに自然に集うことで生まれるコミュニケーションスペースやユーティリティスペースがゆるやかにつながることで、学年のまとまりや特色を出すことができます。
- 壁の入隅をつくることで、コーナーを抛り所にして、個別に適した居場所を見つけたきっかけが増えます。
- 通路に対して直行する壁面は目に入りやすく、掲示壁を歩きながら一望できるため、学びの共有が誘発されます。
- 壁や建具を使って、教室間の音の伝搬経路を長くし、天井面で吸音する事でオープン教室であっても隣接の授業に支障のない音環境を確保出来るので、先生はお互い気兼ねなく自由に活動ができます。
- 教室の外壁のコーナーを使って2面の窓を設け、ビオトープやシンボルツリーへの視野を広く確保できます。

<安全上の配慮>

- 廊下のメインの動線は十分な広さで見通しのよい動線を確保します。
- 廊下に面する様々な室が一望に見通せるので、複数の先生で見守りやすい構成となります。
- ロッカー等の家具は高さを低くし、背板を透かすことで、見通しを良くし、出会いがしらの衝突をなくします。
- 座っても視線が通るため、安心感と開放感が両立するゆるやかにつながる空間となります。
- コンクリート壁の出隅部は○面木を入れて、当たりをやさしくつくります。
- 木製の家具や建具、曲線状のコーナーガードなどで、児童が当たってもけがをしにくい設えとします。
- 吹抜けまわりの手すりは児童の重心よりも高い、高さ1.4mの足掛かりのないつくりとして、落下しない安心感のある設えとします。
- 吹抜けに面してベンチやカウンターのような足掛かりがある場所は、天井までのガラスなどで落下しないようにつくります。

モードチェンジできる多様なオープンスペース

- コミュニケーションスペース
- ユーティリティスペース



1 建築計画

■ 普通教室まわりの学年ユニット

<画一的でないゆらぎのある空間がつくる学びの広がり>

従来の画一的な教室配置ではなく、使い方を限定しない大小様々な揺らぎのある空間をつくることで、自由で広がりのある学びの場を創出します。

教室とオープンスペースの間、教室と教室の間に可動間仕切りを設置し、そしてオープンスペースには自由に動かせる可動ロッカーを配置することで、児童の動きや先生の授業スタイル、イベント等により、空間を自在に変化（モードチェンジ）させることができる。



従来の学校
・教えるための「均一な空間」

新しい学びの空間
・多様な学びに対応する大小様々なオープンスペース

さくらテラス

- ・ピオトープに面した雨に濡れないテラスを各階配置
- ・カウンター席で読書したり、ベンチで談笑したり、日常的に安全に利用出来る場所

インクルーシブ教育

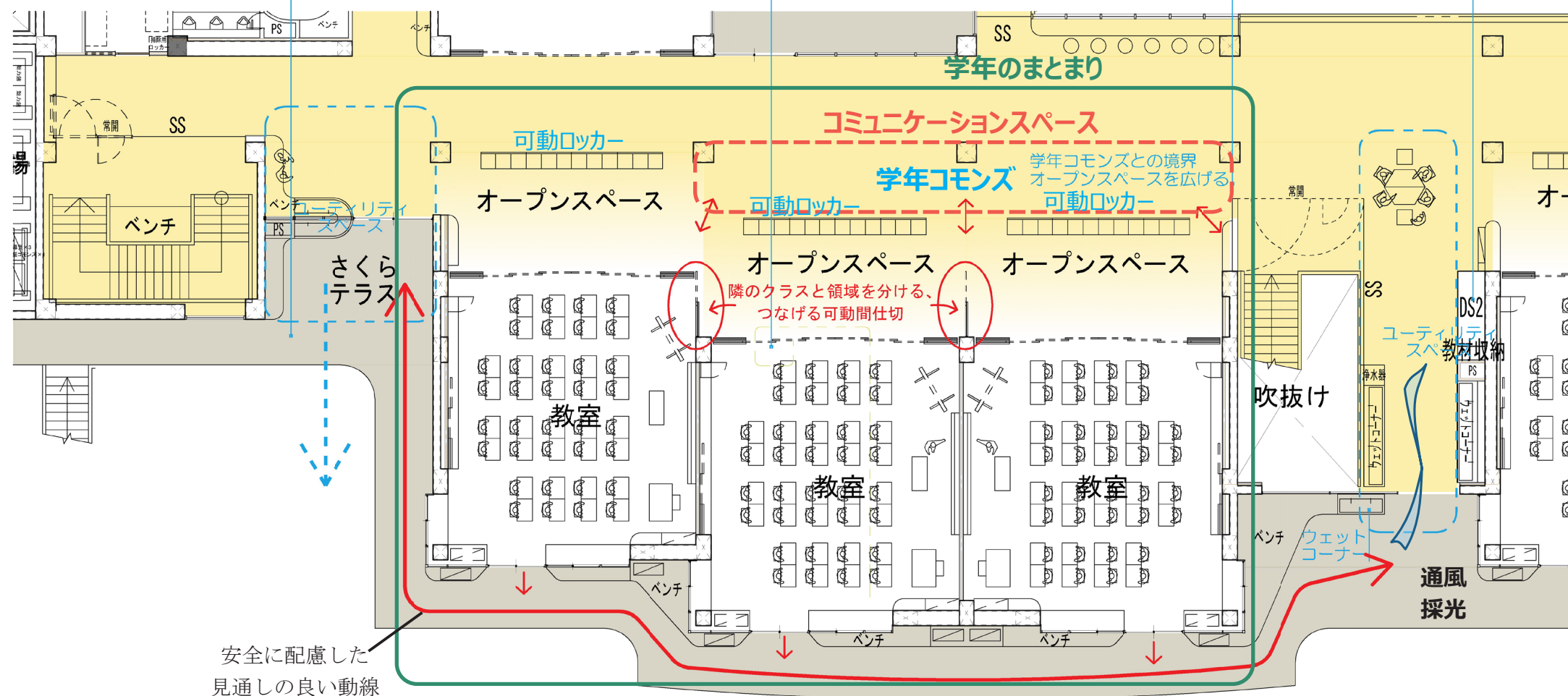
- ・カーテンで囲うことで聴覚過敏の児童が過ごしやすい場所

コミュニケーションスペース

- ・学級の特徴が見渡せる学年展示スペース
- ・談話コーナーで学年を問わず交流
- ・児童や先生が自由に使える談話コーナー
- ・学習空間と共用部の間をつなぐ中間領域

ユーティリティスペース

- ・利用頻度の高い教材や教具収納を教室近くに収納
- ・学年で共用するものをまとめ空間をコンパクト化
- ・日常的手洗いの励行で感染症を予防する他、習字や工作、朝顔の水やり等の利便性を向上



安全に配慮した
見通しの良い動線

<コミュニケーションスペース>

- ・これからの授業のかたちは、一斉授業～グループワーク～複数の担任で複数クラスを見るチームティーチングなど多様な状況にフレキシブルに対応できるゆとりが必要です。弾力的な個人～集団構成に柔軟に対応できる学びの場をつくります。個別、習熟度別、グループ、などのモードチェンジがしやすく、先生がストレスなく、自由に授業を展開できるように、コミュニケーションスペースとオープンスペースをゆるやかにつなげて学年全体で利用できる設えとします。
- ・学年単位で教室をずらすことで、中央にコミュニケーションスペースとして広い部分を設けます。クラス毎の展示をまとめた学年単位のプレゼンテーションができる「学年展示スペース」や、他のクラスと交流できる「グループワークコーナー」、学年で集会できる「広場」など、多様な使い方ができるフレキシブルスペースとします。学年で囲んだ構成とすることで、異学級コミュニケーションを促進し、多様な他者との関係性をつくり、友達の輪と学びの輪を広げ、協働的な学びの充実につなげます。
- ・ずらしや空間の大小で生まれた窪地によって一人～多人数の学びや集まりに使いやすい場ができます。

<インクルーシブ教育>

- ・コミュニケーションスペースは、聴覚過敏等の理由で教室で他の児童と一時的に一緒に授業を受けられないときの児童のクールダウンスペースとしても活用出来る設えを工夫します。児童の状況に応じて、教室の中、教室の横、少し離れた場所などで授業の気配を感じながら守られた空間を作るカーテンや家具を用意します。

<充実した学びの場を支えるユーティリティスペース>

- ・教材教具収納：日常的に使用頻度の高い教材や教具は、教室近くの壁面収納棚にて保管します。教室からの移動距離が短い為、効率的な授業展開や準備につながります。
- ・ウェットコーナー：学年毎に教室近くに手洗いを設けます。日常的手洗いの励行で感染症を予防する他、習字や工作等の教室での様々な制作活動を支えます。また、外部の学年テラスにも水栓を設け、朝顔の水やり育成等の教育活動に活用します。

1 建築計画

■ 普通教室まわりの考え方

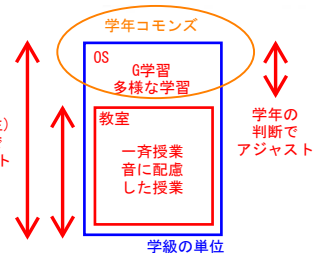
A. 教室とオープンスペースと学年 commons の可変性

オープンスペース（OS）を1教室の1/2の広さとして、それぞれの学級領域として、自由に使えるスペースを持つ均等な領域確保をしたスペースを基本とします。オープンスペースとの間には両引きの多連建具を設置して教室を静かに利用可能です。採光確保する大きな窓戸とし、割れる危険のない軽くて丈夫なポリカーボネートのハニカム版をガラスの代わりに使います。一斉授業→グループ学習→一斉授業というモードチェンジがしやすいことが、自由で創造的な授業運用を可能にします。OSがあることで、机を寄せなくても、集まる、調べるなどの+αの学びが可能です。

OSが使われない理由として、先生同士の遠慮があります。自分の教室として使ってよいOS範囲が、説明されなくても先生に伝わる空間が重要です。

教室をずらすことで、アルコーブ状の窪地ができ

OSが各教室の専用スペースとして使いやすくなり、学級(先生)の判断でアジャスト、展示や掲示スペース等で教室毎の特色も出しやすくなります。



B. 教室まわり 展開図

教室まわりに必要なものは千川小学校や大野田小学校及び既存の小学校を調査し、収納量を確保します。例えば特別教室の道具バックなどは学年毎に異なります。

児童のランドセルロッカーは可動式とし、オープンスペースに設置します。各クラスの領域を示す役割や立ち自習やグループワークの台にも利用できます。

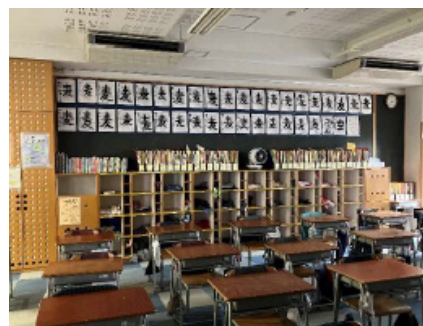
掲示板は常設となる習字（書く度に重ねて展示）と個人目標を入れるクリアファイル分を確保します。掲示と教室背面のホワイトボードを両立させるためにホワイトボードを可動の多連引き戸とします。

オープンスペースとオープンスペースの間は可動の建具を設置して、多クラス合同利用も可能とします。

■ 大野田小学校のオープンスペースの活用状況を検証し継承



教室前教師コーナー



習字の展示



目標クリアファイル掲示と道具バック



一斉授業のスタイルから床座のグループ学習へ



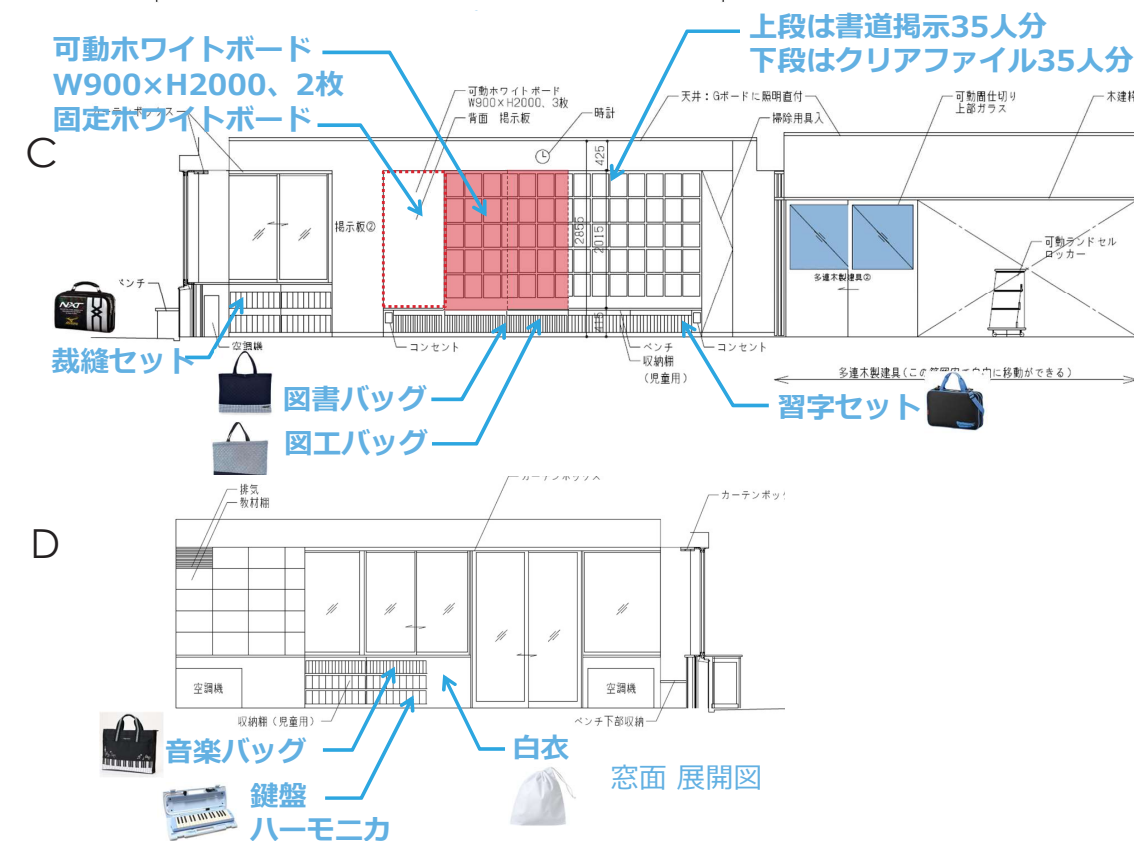
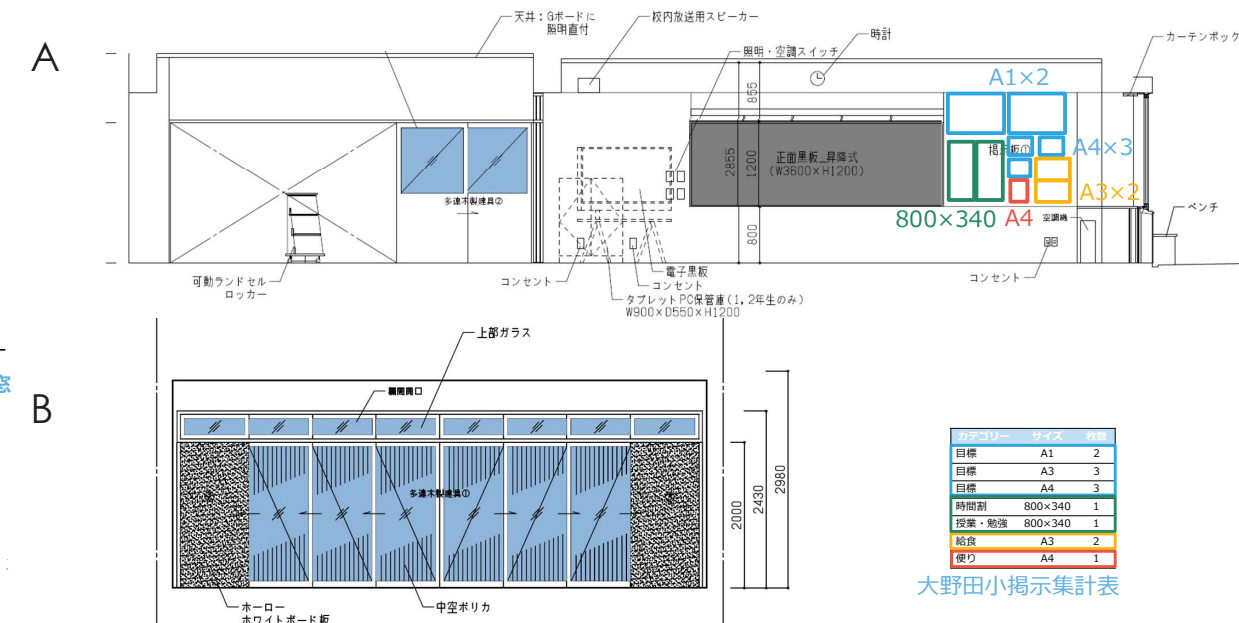
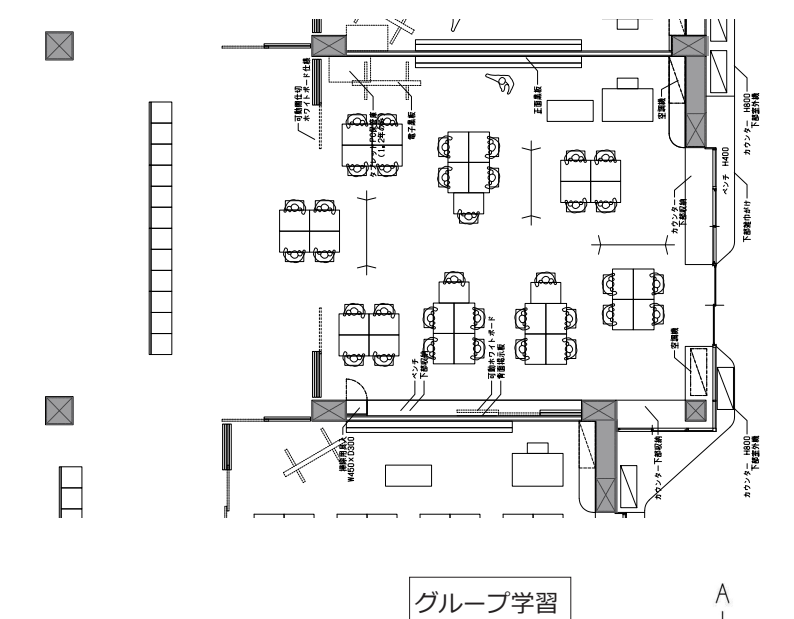
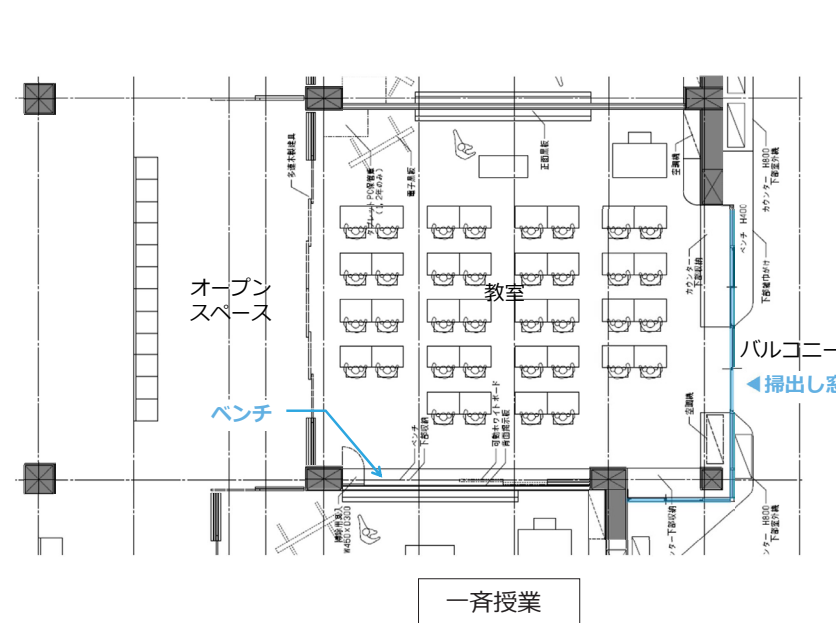
椅子座のグループ学習



一人取り出し学習



人気の学年ユニット端部のベンチ



2 環境配慮計画

2-01 環境配慮計画

■ 基本方針

- 「武蔵野市公共施設の環境配慮指針」に基づいたエネルギー消費性能水準とします。
- 維持管理のしやすさに配慮して、ライフサイクルコストを低減します。
- ZEB Ready 認証を目指します。

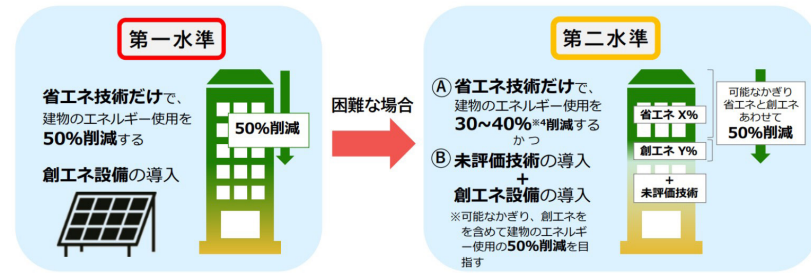


図 指針で求める公共施設一次エネルギー消費性能水準（「武蔵野市公共施設の環境配慮指針」より抜粋）

■ エネルギー消費性能水準を満たすための方策

< 自然採光・日射遮蔽 >

- 深い庇や、テラスの緑化による日射遮蔽で空調負荷を低減します。
- テラスの床面の反射を利用し、室内の明るさを向上させます。
- ハイサイドライトから採光を取ります。

< 自然換気 >

- 中間期（春・秋）は共用部のハイサイドライトや教室のテラスに面した窓を利用して自然換気を促します。

< 断熱・遮熱 >

- 外壁の高断熱化や、Low-E ガラスによる遮熱効果で、室内の冷暖房効率を向上させます。

< クールピット >

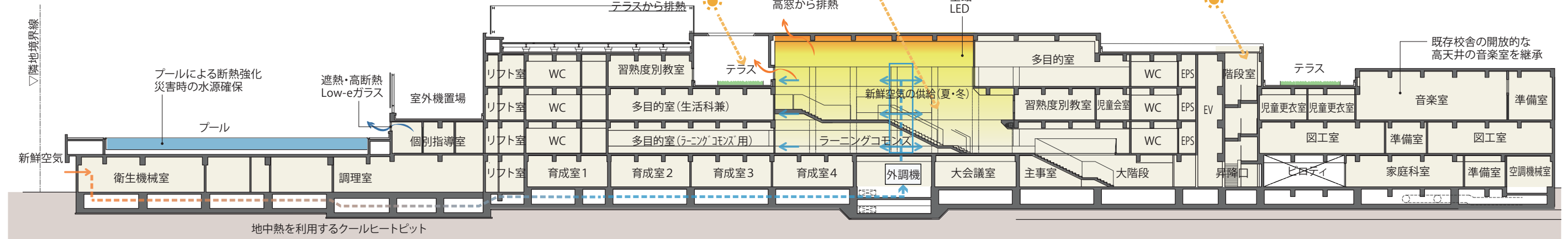
- 年間を通じて温度変化の小さい地下ピットを活用した空調方式とします。
- 衛生機械室のガラリより新鮮空気を取り入れて地中熱を利用します。

< 太陽光発電 >

- 災害時だけでなく、日常的に発電し、学校内の電力として利用します。
- 発電量の見える化を図り、児童の環境意識を啓発します。

< 設備機器 >

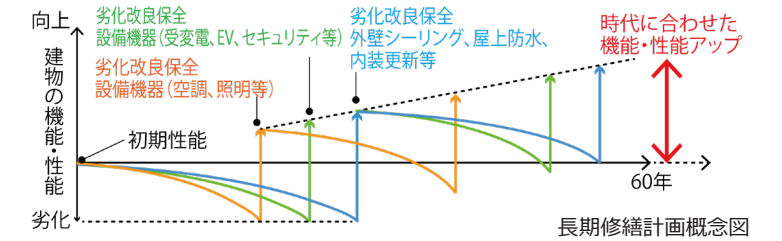
- 空調設備はエネルギー効率の良い機器を採用します。
- 照明設備はすべて LED を導入します。また、室内の明るさに応じて自動で調光する昼光センサーを設置します。
- トイレは節水型器具を導入します。



環境配慮イメージ図（長手断面）

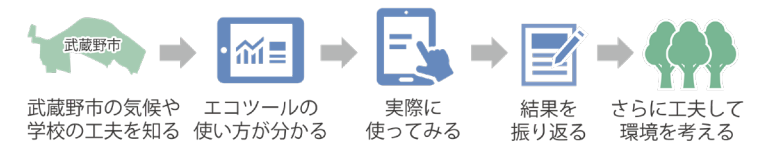
■ ライフサイクルコストを低減する更新・保全計画の立案

- 長寿命改修を視野に入れた保守点検を立案する専門チームが竣工後もアシストし、時代に合わせた機能・性能更新をサポートします。



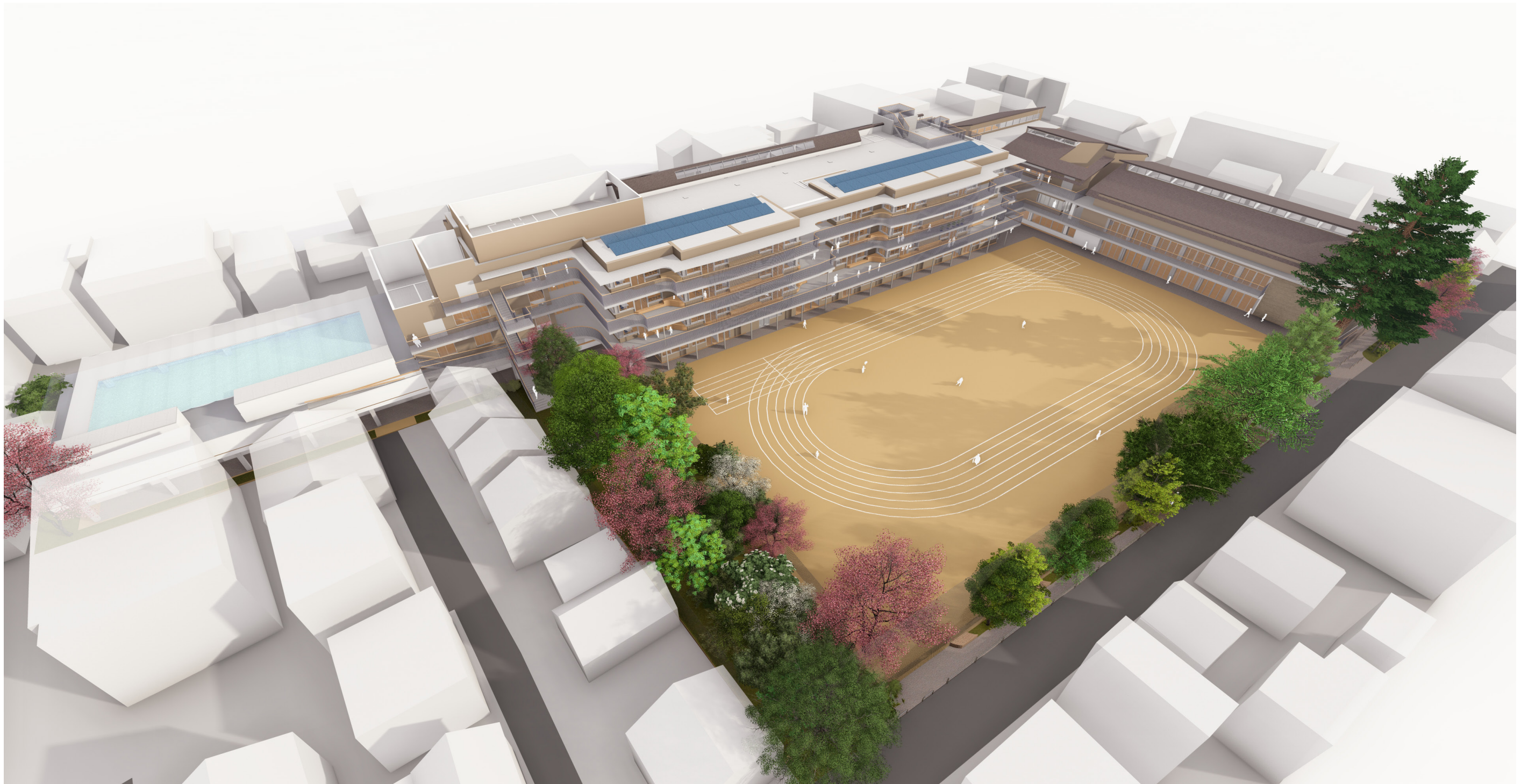
■ 省エネマニュアルを作成し、設計者自らが出前授業します

- 省エネで快適な校舎の使われ方マニュアルを作成し、児童や教職員の世代交代時も最適に運用できるよう、設計自らが出前授業で説明します。



3 イメージパース

3-01 外観パース (俯瞰)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

3-01 外観パース (アプローチより校舎全体を見上げる)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

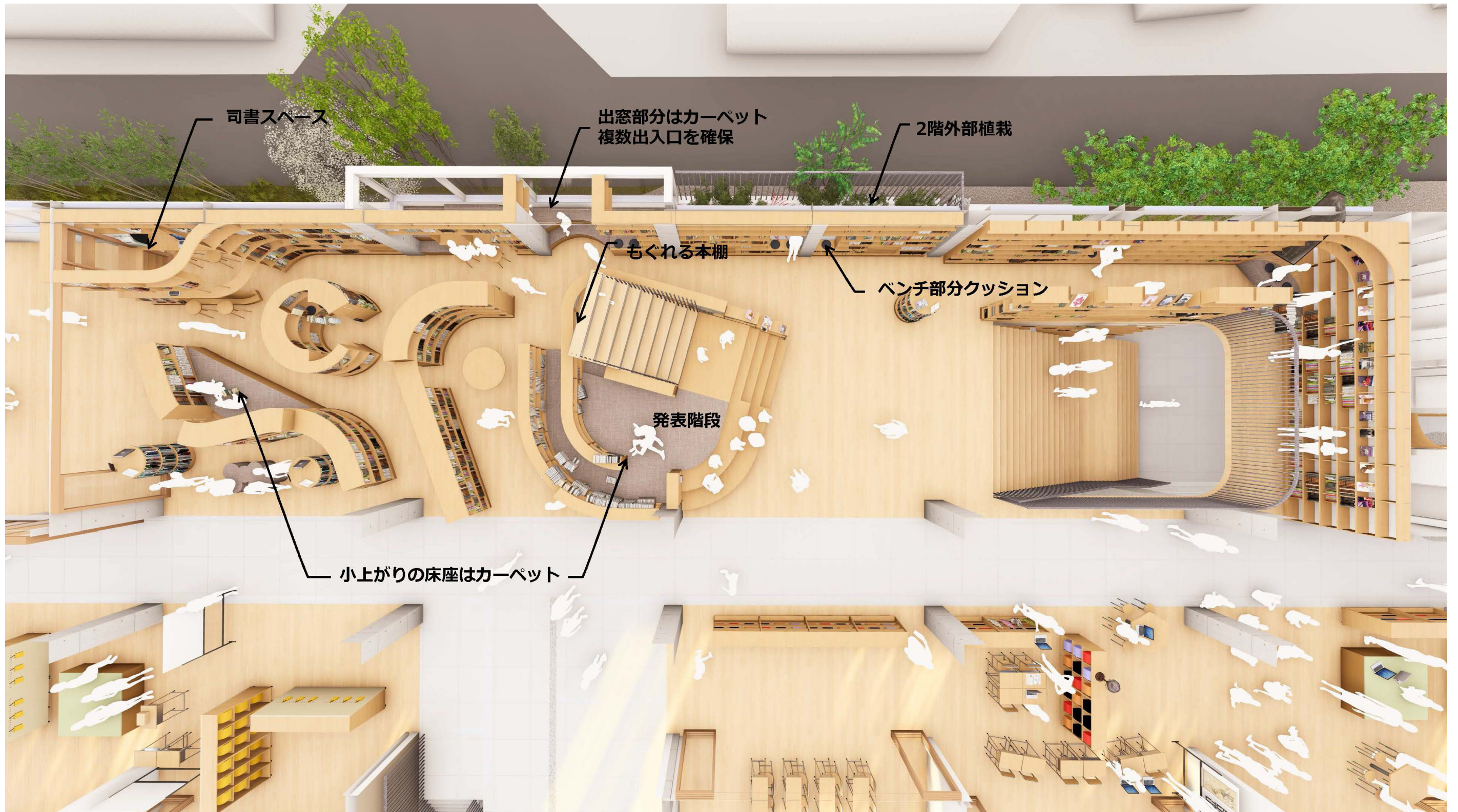
3-01 外観パース (正門より)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

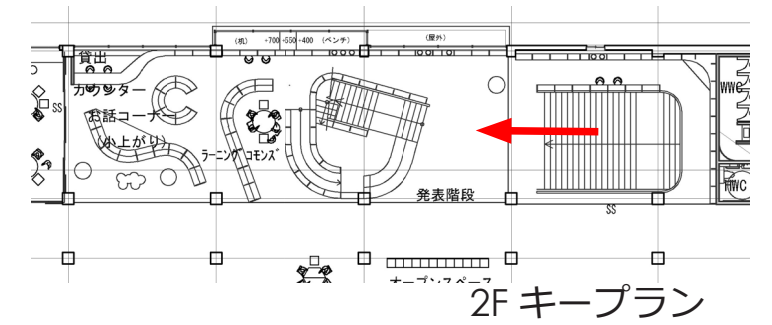
3-02 内観パース (LC平面パース)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

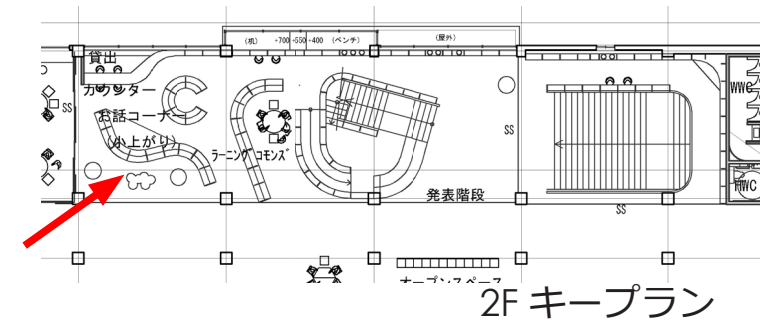
3-02 内観パース (LCを大階段より見上げる)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

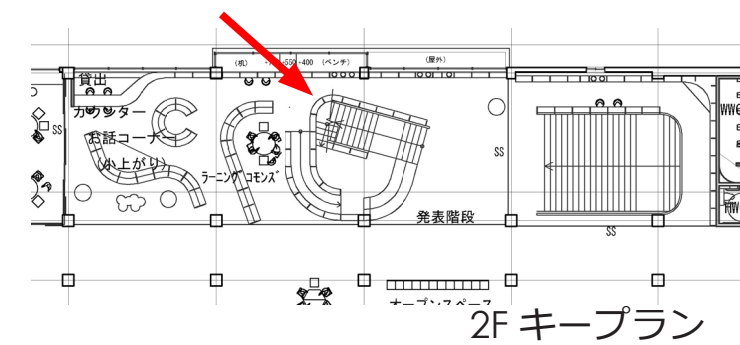
3-02 内観パース (LCを南側より見返す)



※現時点でのイメージです

3 イメージパース

3-02 内観パース (階段下の潜れる本棚)



※現時点でのイメージです

武蔵野市立第五小学校 コンセプトブック